

地図情報レベル 2500 データ作成の製品仕様書に関する調査研究作業

実施期間	平成 16 年度
企画部測量指導課	鈴木 宏昭 鈴木 弘
企画部地理情報システム推進室	大塚 孝治
測図部国土基本図課	関谷 洋史
地理情報部地図情報課	飯田 洋

1. はじめに

測量指導課では、平成 13 年度から平成 14 年度において、地図情報レベル 500 及び 1000 を対象にして、地理情報標準に基づく地図データ作成を支援するため、大縮尺数値地形図データ作成の製品仕様書の検討を行ってきた。平成 13 年度は、「大縮尺数値地形図データ作成に係る仕様書記載事項及び品質要件及び品質評価手順の基準（案）」を、平成 14 年度は、公共測量に適用するための「製品仕様による数値地形図データ作成ガイドライン（案）」を作成し、国土地理院のホームページから公表してきた。

平成 15 年度は、地方公共団体等で広く整備されている都市計画図等の地図情報レベル 2500 を地理情報標準に準拠した作成を支援するため、「地図情報レベル 2500 データ作成に関する調査研究作業」において、地図情報レベル 2500 の製品仕様書（案）（以下、「製品仕様書（案）」という。）及び発注者向けの空間データ作成のための製品仕様書作成の手引き書（案）（以下、「手引き（案）」という。）を作成した。

平成 16 年度は、前年度に作成した製品仕様書（案）及び手引き（案）の実用性を検証することを目的として、都市計画業務等における地図情報レベル 2500 作成の実証実験を行い、製品仕様書（案）及び手引き（案）の改訂を行った。

2. 研究内容

前年度作成した製品仕様書（案）による地図情報レベル 2500 データ作成の実証実験は、デジタルマッピング方式及びマップデジタル化方式により行い、データ作成を通じて抽出された課題等について、解決方策を検討した。

3. 得られた成果

(1) 改訂版製品仕様書（案）

主な検討事項

- 1) 地理情報標準プロファイル (JPGIS) の検討内容を考慮した見直し
- 2) 実証実験の課題等を受けての修正

(2) 改訂版手引き（案）

主な検討事項

- 1) 測量成果及び測量記録の謄本交付手数料の改定に伴う修正

2) 平易な内容に修正

(3) 地図情報レベル 2500 データ作成の製品仕様書に関する調査研究作業報告書

報告書には、地図情報レベル 2500 データ作成の実証実験での課題について、応用スキーマ、品質要求、評価手順、符号化仕様、描画規則に関する検討及び今後の課題等がまとめられている。また、付録として実証実験の過程で発生した質問、改訂のための提案事項及び描画イメージを取りまとめている。

4. 結論

実証実験の結果、前年度作成した製品仕様書（案）について特に問題のないことが実証できたが、応用スキーマについて、地物定義に柔軟性を持たせることと、取得基準の明確化を行いデータ作成が実効性の高いものにすることができた。また、符号化では、実際に XML データを作成したことにより、妥当性の検証を行うことができた。描画規則では、描画辞書を実装し、スキーマの妥当性を検証した結果、おおむね描画が実装可能であることが実証できた。

手引き（案）についても製品仕様書（案）と同様、特に問題がないことが実証できたが、データ作成実験を通じて出された課題のうち、個別の運用レベルで検討すべき事項については、手引き（案）の中に説明を加え、製品仕様書（案）の運用場面において柔軟な対応が必要となることを明記し、より実用的な手引き（案）へと改訂することができた。

これまでの実証実験により、製品仕様書（案）としての内容が拡充され、データ作成者にとってもより理解しやすい内容とすることができたが、今回の実験では地図作成から描画までの実現であったため、今後は応用分野においてデータ利用の検討を行い、製品仕様書（案）のフォローアップを行っていく必要がある。

今後、測量作業の発注形態は、作成仕様（プロセス）を規定した作業規程による発注と成果品の品質を明示した製品仕様（プロダクト）の発注が混在することが予想されるが、本製品仕様書（案）を含め、一連の調査研究作業で得られた成果や資料が、製品仕様による地図データ作成の普及、啓発等において利用されることを期待する。